

## 「平成 29 年 9 月 1 日に思う」

“生涯現役”を貫き、元気に長生きしたいという夢を実践された医師・日野原重明さんが先月、105歳で亡くなりました。

生前、「年をとること自体が未知への世界に一步ずつ足を踏みいれていくこと、こんな楽しい冒険はない」「死とは生き方の最後の挑戦」など、数々の名言を残されています。

特に印象深い言葉は、彼の座右の銘でもある「人は創めることさえ忘れなければ、いつまでも若くある」。100歳を超えてもなお、チャレンジ精神を大切にする彼の姿勢は凄いの一言に尽きます。

また、医師として「患者と対等に接する医療」を実践し、医学界にも多くの足跡があります。

とりわけ大きな実績は、70年代に成人病と呼ばれていた脳卒中や心臓病などを「生活習慣病」と名付け、いかにふだんの生活習慣が大切かを私たちに気付かせて、病気の予防につなげようと提唱されたことです。

日野原重明さんの行動とメッセージは、今日の日本の高齢化社会に大きな影響を及ぼし、老いをけちらし勇気と元気を届けてくれたように思います。

9月18日は「敬老の日」です。国民の祝日に関する法律によれば「多年にわたり社会に貢献してきた老人を敬愛し、長寿を祝う日」とあります。

目上の方への敬意を忘れず、お年寄りがチャレンジ精神をもった元気な国であり続けることを願います。